

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市若林図書館
2	指定管理者	株式会社 ヴィアックス
3	指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数》 令和元年度：181,597人団体〔個人：181,302人，団体・文庫：295団体〕（前年度比 108.3%） 平成30年度：167,742人団体〔個人：167,357人，団体・文庫：385団体〕 平成29年度：165,505人団体〔個人：165,102人，団体・文庫：403団体〕
		《事業》 仙台市若林図書館の運営管理
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 97,045千円 (95,220千円) ()は前年度決算額 ・ その他市が負担した費用 16,415千円 (17,575千円)
		《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 39千円 (27千円)
6	利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート 実施期間：令和元年12月8日(日)～21日(土) ・ 利用者懇談会 開催日：令和2年2月13日(木)

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事も適切に行われている。サービスの質の向上や利用促進のための取り組みもなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況、また、施設の開館状況は仕様書のとおり適切である。指定管理料も適正に執行されている。個人情報の取り扱いや情報システムのセキュリティ対策については徹底している。危機管理マニュアルを作成し研修を実施するとともに、災害発生時の訓練は関係機関と合同で適切に実施されている。	30/30
III 施設・設備の維持管理	建物及び設備は適切に管理されており、備品も適切に管理されている。環境へ配慮した取り組みがなされている。	17/17
IV サービスの質の向上	「若林図書館だより」や「上映会通信」などの広報誌を発行し、若林区内の市民センターやコミュニティセンター、児童館にも配布を行うなど、幅広い層へのアピールを行っている。本社の人材育成基本方針に基づく年間研修予定表を作成するとともに、テレビ会議システムで本社の研修にも参加できる体制を整えるなど、職員の人材育成に取り組んでいる。	27/27
V 施設固有の基準	子ども読書推進活動においては、のびすく若林や「新寺こみち市」など、積極的に図書館の外に出て出前おはなし会を実施しており、ビブリオバトル中学生大会などの定評ある事業を継続して行っているほか、独自の読み聞かせボランティア講座も実施し、新たな読書活動推進の担い手育成に貢献している。 また、東北学院大学と連携し、被災した新浜の歴史をテーマにした事業を実施するなど、震災の記憶の継承や震災文庫の利用促進を図った。農業園芸センターとの連携事業を実施し、分担収集分野である農業関連資料のPRにも努めている。	18/16

三 評価総括

《指定管理者（株式会社ヴィアックス）による自己評価》
<p>令和元年度は若林図書館の持つ特徴や地域特性を活かし「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現を目標に運営を行った。自主事業では、引き続き地域連携事業を中心に取り組み、利用促進を図った。中でも、「読み聞かせボランティアサークルほんわか」の新規ボランティア養成講座を実施し、活動機会を拡大するなど、市民協働を進め、新寺こみち市での「ヤギさんおはなしかい」やのびすく若林での「出前おはなし会」のほか各種おはなし会を積極的に行うなど、子どもへの読書推進活動に取り組んだ。また震災関連事業では、東北学院大学と連携し、仙台市東部沿岸部で地域に根付いた復興活動に取り組む団体をパネル展示で紹介しながら、ギャラリートークも実施し、仙台市図書館で進める『震災文庫』の利用促進を図る機会とした。併せて、区文化センターや区中央市民センター、せんだい農業園芸センターなどの近隣施設と連携した事業も継続的に行った。指定管理者の独自事業として、「情報リテラシー支援講座」、「中学生ビブリオバトル」、「文学散歩：再考!!真山青果を知る」など様々な年齢層に合わせた多様な事業を実施したことで、既存利用者の満足度を上げたほか、新たな利用者の掘り起こしにつなげることができた。ただし新型コロナウイルスの影響で実施できなかった事業もあった。職員研修では、コンプライアンス研修や個人情報保護研修、人権啓発研修など全従業員対象の研修のほか、テレビ会議システムを活用した専門業務研修を実施、加えて仙台市図書館、宮城県図書館主催の研修にも積極的に参加し、専門性の向上につなげた。施設管理面では、児童書架吹抜け照明の修繕工事や視聴覚室の音響設備改修工事を行い、館内設備を整備した。また、YAコーナーや新刊本の設置場所を工夫するなど、快適な読書環境を提供した。加えて、3年間の防火管理の実績が認められ防火対象物特例認定を受けることができた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和元年度は、地域イベント「新寺こみち市」における「ヤギさんおはなしかい」の継続、のびすく若林でのおはなし会実施など、地域に向かい事業を行うとともに、館独自として新たにボランティア養成講座を実施し、ボランティアの活動機会の拡大を図るなど、市民協働で子どもの読書活動推進事業に取り組んだ。</p> <p>また、震災関連事業として、東北学院大学と連携し、被災した新浜の伝統を振り返り、生態系を見守る活動を紹介する展示を行い、地域の歴史や震災の記憶の継承に取り組んだ。農業園芸センターとの連携事業では、伝統野菜や地域の農業に着目した事業を実施するとともに、分担収集分野である農業関連資料のPRにも努めた。</p> <p>職員研修については、テレビ会議システムの活用により、専門分野への研修に職員を積極的に参加させたほか、館独自に防犯講座を実施し、不審者への対応や心構えを全職員で学ぶなど、充実した研修体制を整えている。さらには、YAコーナーや新刊本の設置場所の工夫に取り組み、快適な読書環境の提供に努めた。</p> <p>今後も引き続き、民間のノウハウを活かした事業実施とともに適正な施設運営を期待する。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局市民図書館